

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2190200077		
法人名	合同会社 聖恵会		
事業所名	恵みハウス		
所在地	岐阜県関市大平台14-5		
自己評価作成日	平成29年10月19日	評価結果市町村受理日	平成29年11月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kanji=true&JizyosyoCd=2190200077-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 中部社会福祉第三者評価センター		
所在地	岐阜県関市市平賀大知洞566-1		
訪問調査日	平成29年11月 4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

隣人愛の理念の元地域密着の介護施設として地域の皆様に支えられて今日まで歩んできてきました。10月初旬にはこがねだ中学2年の生徒さん方が3日間研修に連れてられ、利用者様との交わり、肩たたきや共同作品作り、地域ボランティアさんによる猫の籠作り製作指導で11月の西部地区の文化祭に出品します。また地域ボランティアによる絵手紙指導と展示も皆様の楽しみになっています。また今年はグループホームの最高齢の利用者様で100歳を迎えられた方がおられ、お祝いの会を開き、関市長様に来て頂きました。姫御様がピアノの先生をされているのでハッピーバースデーの演奏をして下さり、外国籍の職員が素晴らしく大きなケーキを作ってくれました。名前と年齢がデコレーションされていて日本では珍しい花火の仕掛けがあり感動的な誕生日会でした。地域に根差し支えられ、今後も愛に満ちた施設として歩んでいきたいと願っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者の作品が展示されている“西部ふれあいまつり”の見学に同行した。昼食はサービスエリア内のフードコート。事前に管理者が食券販売機3台分のメニューを写真に収め、利用者に見てもらってオーダーを取ってあったことから、手際よく食事が準備された。目の不自由な2名の利用者も、ほとんど職員の介助を受けることなく食事を摂っていた。展示会場の一角に「恵みコーナー」が設けられ、見事なパッチワーク、絵手紙、松ぼっくりのこけし、写真フレーム、動物かご、編み物等が展示されていた。全てがリサイクル作品で、編み物の「袋とマフラー」は、数ヶ月前に百歳の誕生日を祝った盲目の女性利用者の作品である。外国籍の職員が心を込めて作ったバースデーケーキと利用者の写真が、手作りの写真フレームに収まっていた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input checked="" type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input checked="" type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	私共の仕事の礎は「隣人愛」であることを基軸としていつもそれを心から離さないよう申し合わせている。	ホームが目指す“隣人愛”は、一方的に与えるだけのものではない。外食支援で立ち寄った食堂で、見知らぬ建設会社の作業員たちが、混雑のためにまとまって席に着けない利用者を思いやり、席を譲ってくれた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方が利用者様に荷造り紐を60cmに切って広げる作業をしてもらい、籠を編まれたり、地域の民生さんが毎月絵手紙の指導ボランティアに来てくださり、暑中見舞いや年賀はがきを製作して家族に郵送している。	市の主催する“西部ふれあいまつり”には、地域のボランティアの協力によって制作された利用者の作品が数多く並んだ。今月下旬の“紅葉狩り”には、地域から多くのボランティアが支援に駆けつける予定である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	利用者様を自治会催事にお連れしたり、外食にお連れしたりして地域役員ボランティアの皆さんと交流しながら認知症の方へのさりげない関わりを通して周りの方にも少しずつ理解していただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員さん方が施設に積極的にかかわって利用者様と交流して下さる。自治会行事や催事など誘って頂き感謝しています。	2ヶ月ごとに開催される運営推進会議には、地域から多彩なメンバーが集まる。利用者・家族、市と地域包括支援センター職員、自治会長、民生委員、大学の先生、自動車ディーラーの社員等々である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進委員会にはいつも市行政や包括から出席を得て感染症予防や防災訓練、事故防止などアドバイスをいただいている。	運営推進会議には、毎回市役所と地域包括支援センターから担当者の出席がある。会議で「感染症予防」の意見交換をした後、市の担当者に“ノロ対応キット”を点検してもらった。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者様の安全を第一として家族の理解と市役所指導の下 記録を残している。早朝夜間は職員が一人の時のみ安全危険防止の為施錠している。	外国籍の職員が2/3を占め、言葉の問題があつて“身体拘束をしないケア”の徹底は思いのほか難しい。しかし、リーダー格の職員(比国籍)が日本語を比国語に訳して指導しており、ホームの目指す方向性は保たれている。	家族アンケートの中に、『外国籍の職員が一所懸命働いている。言葉は通じなくても心が通じている』との感謝の言葉があった。リーダーを中心に更なる研鑽を期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待は全く理念に反することであり、何が虐待になるのか日常のミーティングの中で話し合っている。できる限り虐待防止の研修参加に努めるよう今後配慮する。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人をつけている方がハウスに二人いる。認知症の方が今後ますます増えていく現状で事業所からキャラバンメイト2名を出して活動しながら日常職員間で認知症の知識を得ている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時の説明と了解は元より救急時の対応や希望の病院を伺い、不安や疑問点には当施設ができる事できない事を充分説明して了解をもらっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様の要望で応じられないことをはじめに了解してもらっている。細部にわたり家族様に聞きたい事や伝えたい事はその都度メールや電話で伝えたりして協力してもらっている。	家族がホーム運営に協力的であり、運営推進会議、「恵みカフェ」、ホームイベントや外出イベント時には、多くの家族が集まる。意思の疎通が図られているせいか、家族アンケートに“改善”を求めるコメントはなかった。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者は常に現場に行き、利用者様の様子や職員の様子を見ている。代表者はナースでもあり、特に利用者様の体調に注意を全職員で払うよう努力している。	外国籍の職員の意見・要望は比国籍のリーダーがまとめ、必要に応じて管理者や代表に伝えている。他の職員の意見は、介護支援専門員が聞き取ってまとめている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働基準法に則り人員配置は手厚くしている。有給、産休、育休をとる機会を与えている。各職員で考え方や常識が違うのでなるべく公平になるよう配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者自らが医療職ということもあり、職員が働きやすいように細部にわたって指示をしている。特に全員で褥瘡の進んだ方をほとんど完治に近くまでにして感動したこともある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型のグループに入れてもらい、勉強会に参加して、他事業所の情報交換やら事例研究で学ばせてもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談はなるべく話しやすい雰囲気にしてこちらは話を伺うようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	認知症の介護で苦しんでこられた家族様の気持ちを察するとともに経済的な事、契約時にできる事できないこと等ははっきりと話して、要望など伺っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様の中には畑の事を心配される方がいて毎週土曜朝に家に送り、(独居の為)娘様に来て頂き、あくる日夕方迎えに行っている。畑の草取りがしたいという希望が強いのでそうしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員が洗濯物を取り入れ、利用者様でたたんでもらっている。字の分かる方には洗濯物の記名をみて一人分ずつ分けておいてもらって助かっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	よく面会に来て下さる家族様が何人かおられ、その度に様子をお知らせしている。家族が遠方であつても少しでも近くに来られると19時頃でも「一目見に来た」と会って行かれることもある。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	殆どがご親族、友人の方が面会に来られ、重度になつていかれる中しゃべることができなくともよい表情での発語が聞かれる。先日何十年ぶりの近所にいた方が面会にこられ、じっと見て記憶を辿っておられたが理解は不明で有る。	“西部ふれあいまつり”の会場で、「恵みケアセンター」(ホームに隣接する小規模多機能事業所)を利用して元利用者として遭遇した。元利用者の出展した見事な盆栽を前にして、利用者、職員が旧交を温めた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	最高齢の100歳の方がオカチャン、タスケーなど度々不安を訴えておられる。その方に対して「ダイジョーブ」と何度も声掛けして相手をしてくださっている方も有る。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	5年間ハウスに居られ入院になった。入院中もハウスからお誕生祝いに色紙とプレゼントを病室に持っておい舞いしたが病状が悪化し、入院が長引くことになり契約を解除した。その後亡くなられたが何かとハウスを気遣われ、訪ねて下さる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	この9月から入所された独居の男性利用者様が畑を気遣われ土曜朝送迎時に家に送り、娘様にお世話をお願いして家で畑の草取りをして過ごし、あくる日曜日夕方方迎えに行っている。	“西部ふれあいまつり”の作品展見学の前の腹ごしらえは、サービスエリア内のフードコート。事前に管理者が食券販売機を写真に撮り、利用者は数十種類のメニューを目で見て希望の食事をオーダーした。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ひ孫様、お孫様の写真を職員とアレンジして壁掛けを作り、お部屋にかけたり置いたりしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員が洗濯物を取り込んで、あとは利用者様がそれぞれたんで下さる。重度の方が多いのでお元気な方がされ、記名を読んで一人一人の分を分けて下さり、職員が運んでいる。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画とモニタリングは毎月のリーダー会で検討し本人や家族に必要な最善の介護を目指して介護計画を作成している。	利用者や家族の思いを反映した介護計画が作成されている。独居で小規模多機能事業所を利用してホームに入居した利用者は、毎週末には娘さんと一緒に自宅に帰り、これまで通りに畑の世話をしている。	今後、「課題分析－ケアマネジメント型」の介護計画が主流になると思われるが、その中に利用者の思いを汲みこんで介護計画を作成してほしい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	外国籍の職員が多く、少しずつ研修に行き、勉強している。記録も前より理解ができる。事務職も現場での様子や聞き取りをしながら問題が発生するたびに一緒に考えている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	独居でハウスに入所したばかりの男性利用者には今までしてきた畑仕事ができるよう娘様の協力を得て土曜朝に家に送り日曜夕方方迎えにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進委員でもあるボランティアさんが今年は二人もお出で頂いてお一人は絵手紙で家族に暑中見舞いや年賀状を製作し、お一人は荷づくり紐で籠制作の為に紐伸ばし作業提供で地域の文化祭に出品と生活に楽しみが増えている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	クリニックが併設されており、だんだん重度になっていかれる方もあり、利用者様が安心されるよう、気になる時はいつも診てもらっている。	母体が医療機関であり、代表が看護師であることから医療的なケアにも対応力がある。完治まで長期化が予測されていた褥瘡の利用者は、短期の支援(こまめな体位変換等)で完治し、家族から感謝されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設長自体がナースということもあり、クリニックのナースとともに終日利用者様の状態を看ている。緊急時はすぐドクターに報告して適切な指示をもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	クリニックからの紹介状や介護情報提供は勿論のこと入院された方には見舞い、家族様からも様子を伺い、カンファレンス時に情報をいただいている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご利用時にご本人、特にご家族に救命救急についての同意書を取り、ドクターの指示を受けながら介護に当たっている。事業所としてできる事、難しいことなどを話し合っただけで了解をいただきながら進めている。	利用開始時に重度化に対するホームの方針を説明し、利用者・家族から同意を得ている。これまでにホームでの看取りの経験はあるが、重度化や医療的な支援が必要な場合には、協力医の指示で病院に入院するケースが多い。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	まず併設のクリニックに報告し、現場にいる職員(ナース、ヘルパー)が救命救急処置をする。ミーティングでは予想される危険についていつも話し合っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	10月末には地域の防災訓練に利用者様と参加を予定している。年に2回11月と3月に消防署立会いの下に避難訓練を実施している。夜間想定がなかなかかなわず運営推進会議ではお願いしている。	念願のスプリンクラーが全館に設置され、防災面での充実度が大幅に上昇した。今年度の地域合同防災訓練は、折からの台風襲来と重なったが、職員に混じって利用者も一人が参加できた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様情報にはヘルパーとして守秘義務があることは普段から申し合わせている。認知症であっても尊厳を損ねないかいつも気配りを忘れないよう申し合わせている。	認知症であっても、障害があっても、普通の生活を享受できるように支援している。作品展の“鑑賞”にはホームと小規模多機能の利用者8名が参加したが、中に全盲の男性と女性(百歳)の利用者2名が含まれていた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	被害妄想が強くなられた時には職員間で交代しながらやさしい言葉かけを続けている。時間をかけて落ち着いていただけるよう複数の職員で関わっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	寝たきりの方には皆様の食事時を外してなるべくリビングにお連れして皆様方の談笑、CD音楽など生活音の中で過ごして頂いている。たまに発語があり、意味不明でも表情は柔らかない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	夜勤者が朝食前に女性利用者の髪をとかし職員が女性であると髪飾りをつけている。男性利用者は自分でひげを剃って食堂に来られる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の中には意外にもウナギや西瓜やマツタケが苦手なおられ、やはりよく伺ってお出しするのが良いと職員全員で確認した。皆様は下膳は難しいがテーブル拭きはされる。	サービスエリア内のフードコートでの昼食は、事前に好みのメニューが聞き取ってあって、手際よく利用者の前に並んだ。目の不自由な2名も、ほとんど食事介助を受けることなく、自力で食事を摂っていた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	胃ろうの方が何人かおられ、医療職が管理しているが摂食の難しい方にはスポーツ飲料を提供して1日600ccにはなるように勤めている。家族の了解を頂き食べられるものを購入して何とか摂食に繋げている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	寝たきりの方には早出の職員が口腔ケアをしている。胃ろうの方も口腔ケアをしないと誤嚥肺炎を起こしやすくなるので気をつけている。何よりもご本人の爽快感を大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排便管理はナースとヘルパーとで記録を共有して排便管理をしている。寝たきりの方でも二人介助でトイレ排便できるようチャンスを作っている。	職員は利用者個々の排泄パターンを熟知しており、作品展見学の外出中も絶えず気を配っていた。サービスエリアで、作品展の会場で、常に適切なトイレ介助が行われていた。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	リーダー中心に排便チェックをしている。ドクターにお願いして便秘薬をかえてもらったこともある。自立度の高い方はカレンダーに自分で印をつけてもらい、ナースに聞いて薬を提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず週に3回の入浴を楽しむにしている	朝ぶらの好きな方には夜勤と早番とで協力して入浴してもらっている。現在入浴拒否の方はおられず週に3回の入浴を楽しみにしている。	一日おき、週に3回の入浴を基本として支援している。重度の寝たきりの利用者や体調の悪い利用者は、その状況に応じて清拭やシャワー浴等に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	原則21時消灯だがそれまでには休まれる方がほとんどである。しかし夜中に何度もトイレに行かれたり歩き回ったりされるが外国籍の職員がよく夜勤をするので「私がずっと守るよ」とハグして落ち着いてもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	認知症の進んだ高齢の女性利用者様が自ら「これ何に効くの」と言われるので何度も説明すると「ドクター呼んで」と時間がかかるがそれでも服薬できている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	御元気な利用者様には洗濯物をたたんでもらったり同じものを集めることができる方には名前ごとに分けてもらっている。職員が確認して寝たきりの方の居室に運んでいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年も桜の季節に寝たきりの方をストレッチャーに乗せて送迎車で近所の古墳公園にお連れする。ちょうど家族の面会があり一緒にお連れできて写真に収めることができた。	利用者の重度化進行はあるが、積極的に外出支援を行っている。家庭菜園での野菜作りや外食ツアー、季節の花見や紅葉狩り、ふれあいコンサート、ふれあいまつり、市内GH運動会、地域合同防災訓練等々、職員もさることながら、利用者も忙しい(楽しい)。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金とケータイは遠慮していただいているが10月に入所されたばかりで娘様の協力を頂いて財布を持っていただいている。財布を持つことで安心される。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	絵手紙ボランティアさんが毎月来て下さり、夏は暑中見舞い、冬は年賀状を家族に出している。またお身内が定期的に絵手紙を送って来られ、楽しみにしておられる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングにはそれぞれの利用者様の居場所が決まってきている。寝たきりの方でも昼間離床して居られるところはテレビの前のソファで面会もそこでして皆様とお喋りできる。写真をアレンジして壁にはいろんな表情が飾られている。	ほとんどの利用者が、昼間は併設の小規模多機能事業所の広いリビングで過ごしている。地域から支援者や来客が多数詰めかける「恵みカフェ」もこのリビングで開催される。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	小規模多機能の利用者様が時々静かなハウスのリビングに遊びに来られ、読書をされる。また気の合った利用者様で数字合わせや工作を楽しんでいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今年100歳を迎えられた利用者様には外国籍職員こそって居室を飾ったりドア回りには大きなおめでどうの飾りかけた。ご本人は目が不自由ではあるが皆さんのお祝いの気持ちを受け取っている。	家族の協力を得て、これまでの生活をイメージできる居室づくりを支援している。家族の写真が壁に貼られ、ボランティアの教師に習って作成した絵手紙や小作品が居室に飾られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	目のご不自由な方や難聴の方、帰宅願望が強い方収集癖の方等配慮して共同で集まれる所はあまりものを置かないでシンプルにしている。		